

# 令和7年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名	三木市立三木中学校
------	-----------

## 1 学校教育目標

自ら判断し、たくましく生き抜く生徒の育成 ～ 幸せをつかむチカラを育む ～

## 2 本年度の重点目標

- ・主体的に学び、自分の思いや考えを表現できる生徒の育成(生徒像)
- ・自他の命や人権を大切に教育の推進(生徒像)
- ・確かな人権感覚を持ち、生徒の内面理解に努める教員の育成(教師像)
- ・規律と安らぎがあり、安全で安心して過ごせる学校づくり(学校像)

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

自己評価の方法は適切である。

- ・多角的な評価指標の設定:生徒、保護者、教職員を対象としたアンケート結果に基づき、客観的に達成率を算出する手法が継続されており、評価の根拠が明確で適切だと思います。
- ・目標達成に向けた一貫性:「自ら判断し、たくましく生き抜く生徒の育成」という目標に対し、10の評価観点と具体的な取組内容が密接に連動しており、学校の現在地を正しく捉えられる設計となっている。
- ・課題解決に向けた具体性:「改善の方策」において、ICTの有効活用や地域・専門機関との連携、若手教員の育成など、アンケート結果から導き出された課題に具体的なアクションプランが評価できる。
- ・新たな教育視点の導入:令和7年度より「幸せをつかむチカラを育む」というキーワードが加わり、ウェルビーイングを意識した評価項目であることに共感しました。
- ・詳細に取り組み内容が設定されて達成状況、改善方法も分かりやすくていいと思います。
- ・学校評価アンケートを実施され、三者比較でそれぞれの思いや状況がわかりやすくされている。
- ・生徒達の声に耳を傾けて教育の質向上に努力して成果も見られる。
- ・生徒と保護者は23項目、教職員には26項目にわたるアンケートを実施して達成状況を考察できるように考えられている。また、過去2年間の達成率も記載して経年比較ができるように工夫されている。生徒、保護者、教職員の集計結果をもとに客観的に自己評価できるようにされている。
- ・生徒、保護者、教師へのアンケート調査とその分析がなされ、それ以外にも今年度実施された様々な取組への成果と課題を十分に把握されており、さらに、経年比較もわかりやすく説明されているので、自己評価については、適正に行われていると考える。
- ・教育課程・生徒指導・特別支援教育・地域連携など、幅広い観点にわたって組織的な取組が進められており、学校全体として生徒一人ひとりを大切に教育活動が展開されていることが伝わってまいりました。一方で、各観点到共通して、取組の成果を数値や記録として可視化し、次の改善につなげるPDCAサイクルをより意識的に回していただくことが今後の課題ではないかと感じております。生徒が安心して学び、自らの可能性を広げられる学校づくりへの取組に、心から期待しております。
- ・自己評価は、生徒・保護者・教職員による学校評価アンケートにより適切に評価されている。アンケート結果の中で評価の低い項目については原因究明と改善を図っていただけたらと思います。

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着</li> <li>生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善 タブレット端末の活用</li> <li>学校内外への授業公開</li> <li>少人数指導の実施</li> <li>AIDリル等を活用した反復学習</li> <li>「自主学習ノート」の取り組み推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を有効に活用した授業の展開</li> <li>基礎学力定着のためのAIDリルの活用</li> <li>主体的な学びへの意欲を引き出す授業改善</li> <li>総合的な学習の時間を軸に探求型学習を展開</li> </ul>
道徳・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育の充実</li> <li>人権教育の推進</li> <li>自尊感情や自己有用感の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローテーション道徳の実施</li> <li>人権作文、ポスター制作や人権作文発表会の取組</li> <li>外部講師による人権教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験活動やボランティア活動を通じての所属感、自己有用感の醸成</li> <li>学校生活全般を通じた人権意識の啓発</li> <li>学校生活における人権を大切にされた言動</li> <li>多様性への理解と態度の育成</li> </ul>

<p>評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の積極的な導入やAIDリルの活用など、個別最適な学びの実現に向けた先進的な取組が定着しており、評価Bは妥当である。特に、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、タブレット端末を活用した授業改善や「自主学習ノート」の推進が図られている点は、自ら学ぶ姿勢を育む上で非常に効果的である。今後は、総合的な学習の時間を軸とした探究型学習をさらに展開し、AIDリルによる基礎学力の定着と、自ら問いを立てる力の両立を期待する。教員同士で授業参観を行い、組織的に指導力の向上を図っている点も、生徒の学習意欲を高める大きな要因となっている。</li> <li>タブレット端末を活用し時間を有効利用している点が評価される。</li> <li>基礎学力の定着に向けて様々な取り組みを行っているのは評価できるが、アンケート結果ではまだまだ身につけていないというのが出ている。</li> <li>タブレット端末などを利用して生徒が主体的に学習に取り組めるように努力している。</li> <li>生徒が興味を抱くような単元設定を行い、探求型の授業を推進している。職場体験により社会に必要な知識技能が分かり、主体的に学べる生徒が育ってきている。従来までの一斉授業だけの学習形態から探求型や個に応じた学び方を選択できるなど、授業改善が進んでいることが伺える。</li> <li>学習指導について、少人数指導や「自主学習ノート」の活用等、従来から行ってきた「不易」の部分と、タブレット端末の活用やAIDリルの活用等、令和の日本型教育の象徴ともいべき「流行」の部分をバランスよく取り入れながら実施できている。今後は、特に「流行」の部分のICTを活用した教育方法の検証を十分に行っていただき、効率よく授業等に生かしてほしいと考える。</li> <li>ICT機器の活用や少人数指導など、基礎学力の定着に向けた多様な取組をさせていただいていることがよくわかりました。AIDリルの活用状況や生徒の学習への取り組み方の変化を可視化していただくことで、取組の成果がさらに伝わりやすくなるかと思えます。引き続き、生徒が主体的に学べる授業づくりへの取組に期待しております。</li> <li>自主学習ノートは学習習慣の定着や復習に効果があり、取組を推進されていると評価できる。</li> </ul>
<p>評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招聘した人権教育やいじめ防止出前授業など、多様な視点から生徒の心に訴えかける取組が充実しており、評価Bは妥当である。ローテーション道徳の実施により、学年全体で生徒を多角的に見守り、道徳性を涵養する体制が整っていることは高く評価できる。アンケート結果からも、生徒が道徳や人権の大切さを深く理解している様子が伺える。今後は、体験活動やボランティア活動を通じ、自己有用感や自尊感情をさらに醸成するとともに、学校生活全般において自他の命を大切に人権感覚をより一層磨いていくことを期待したい。</li> <li>中学生13才から15才というデリケートな年代が人権というまたデリケートな問題に目を背けることなく外部講師等を召致し意識付ける事は評価される。</li> <li>多様性についての取り組みは評価できる。今後も更に務めるべきだと感じる。</li> <li>教員と生徒が協力して道徳意識の向上を進めている。</li> <li>ローテーション授業や外部講師による授業などを実施することで、道徳性の涵養を図る取組が進んでいる。従来までの学級担任だけの授業からの脱却が図られている。ネットによるいじめ問題について学校はよく取組をしておられる。この問題については家庭の責任であることを県や市に継続的に啓発していただきたい。</li> <li>人権教育や道徳教育は、教室での授業だけでなく、様々な体験から得られるものが非常に多いと考える。そんな中、外部講師による人権教育を推進されるなど、生徒たちがいろいろな人からお話が聞けたというのは大いに評価できることである。今後も生徒たちにいろいろな経験をさせてほしい。</li> <li>ローテーション道徳の実施や人権作文・ポスター制作、外部講師による人権教育など、多様な取組をさせていただいていることがよくわかりました。今後は、体験活動やボランティア活動を通じて、生徒が自己有用感を実感できる機会をさらに広げていただくと良いかと思えます。多様性への理解を深め、日常の学校生活の中で人権を大切にされた言動が自然に育まれる環境づくりへの取組に期待しております。</li> <li>ボランティア活動は、多様な人との交流を通じてコミュニケーション能力や責任感、自己肯定感の向上が期待できる。</li> </ul>

<p>保健・安全</p>	<p>・保健・安全意識の向上 ・防災教育の充実</p>	<p>・交通ルール・マナーの徹底 ・下校指導、交通立ち番（PTAと連携）の実施 ・薬物乱用防止講演会の実施 ・避難訓練、地域総合防災訓練 1.17の取組</p>	<p>B</p>	<p>・交通ルール、マナーの徹底 ・外部講師による専門的な立場からの指導 ・防災教材や最新の知見やニュース等を用いた防災学習の実施</p>	<p>評価Bは妥当である。 ・感染症予防に対する早期の対応や継続的な学習、さらには蔓延防止のための処置が迅速に行われており、評価Bは妥当である。交通ルールやマナーの徹底においても、PTAと連携した通学指導や立ち番、外部講師による専門的な安全運転講習などが実施されており、生徒の安全意識の向上に直結している。また、防災教育においても外部講師による防災講演会の実施や地域総合防災訓練を通じ、日頃から危機管理意識を持たせる指導がなされている。今後も最新の知見やニュースを取り入れた防災学習を継続し、自らの命を守り抜くたくましさを育てほしい。 ・PTAと連携し防災意識を高め、交通ルールやマナーの指導が評価される。 ・自転車の交通違反が厳しくなるため、中学生には罰金はないが、日ごろよりマナーを身につけてほしい。 ・自転車の罰則も法制化されて、更にしっかりと交通ルールの指導を進めてもらいたい。 ・落雷・大雨・地震などの自然災害における身の安全を守る知識・技能を身に付ける学習の継続をお願いいたします。 ・人権教育と同様に、防災や安全教育も様々な体験から得られるものは非常に多い。従来から続いている外部講師による講演会を継続するとともに、防災教育においては、日々更新されていく教材を活用するとともに最新の知見をどんどん取り入れてほしい。 ・保健・安全に向けた丁寧な取組をしていただいていることがよくわかりました。引き続き、外部講師による専門的な指導や最新の知見を取り入れた防災学習を充実させていただくことで、生徒が自らの安全を考え行動できる力がさらに育まれることを期待しております。 ・交通立ち番は事故防止や地域全体の防犯、見守り意識向上に貢献していると評価できる。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>・生徒の内面理解に基づく生徒指導 ・いじめや不登校の早期発見、早期対応 ・関係機関との連携</p>	<p>・生活アンケート、カウンセリングウィークの実施及び活用 ・職員間における情報の共有・連携 ・アシスト教室の効果的な運営・関係機関(子育て支援課、子ども家庭センター、警察等)との連携</p>	<p>B</p>	<p>・家庭環境を含んだ生徒理解及びSC・SSWとの連携 ・コミュニケーションスキルの向上取組 ・不登校対策に向けた更なる連携と働きかけ ・家庭や地域、専門機関と連携した生徒への支援 ・ポジティブ行動支援による生徒指導の展開</p>	<p>評価Bは妥当である。 ・SNSトラブル等に対して、教育センター等の関係機関と連携し、迅速かつ組織的に対応している点は非常に心強く、評価Bは妥当である。カウンセリングウィークや生活アンケートを通じ、多感な時期にある生徒の内面理解に努めている姿勢が素晴らしい。不登校対策についても、アシスト教室の効果的な運営やSSW・SCの活用により、個々の状況に寄り添った社会的自立への支援が進んでいる。今後は「ポジティブ行動支援」を取り入れることで、問題の早期発見・早期対応にとどまらず、生徒が前向きに自己を律する力の育成にも期待したい。 ・人権問題に発展するいじめや不登校について、カウンセリングウィークを活用し職員間の連携体制が評価される。 ・いじめや不登校といった問題はどこの学校でも課題に挙がっている。環境や人間関係も大切であるが、携帯電話などSNSの付き合い方も重要ではないか。 ・いじめや家庭内事情で悩んでいる生徒にしっかり寄り添って指導できることを願いたい。 ・カウンセリング週間の実施や教職員とSC・SSWとの連携により生徒の内面理解に基づいた指導が行われていることで、落ち着いた学校生活ができている。また、ネット利用におけるいじめ問題についても早期に取り組まれている。 ・不登校問題は、本校だけの問題ではなく、教員や専門スタッフ(ssw、sc)の配置拡充を県や国レベルで行うことや、子育て支援課などの行政による家庭支援を行っていくことをしないと根本的な解決にはならないと思います。 ・不登校生徒の増加が大きな社会的な問題となっており、それに対する効果的な方策や対応が模索されている中であるが、個別の対応が求められているものであり、それぞれに応じた対応策が講じられている。今後も、研修と研究を重ね、生徒の内面理解に努めてほしい。 ・生徒の内面理解を大切に生徒指導や、いじめ・不登校の早期発見・早期対応に丁寧に取り組んでいただいていることがよくわかりました。今後は、SC・SSWや地域の専門機関との連携をさらに深めていただくとともに、ポジティブ行動支援を活用し、生徒の望ましい行動を認め称えることで自己肯定感を高め、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れる環境づくりへの取組に期待しております。 ・SNS等へのトラブルについて、未然に防ぐよう情報共有や啓発がされていると評価できる。生徒会の方が、不登校生徒が減少するよう学校を楽しくしたいと意気込みを持たれていました。生徒会とも連携して、より良い学校生活が送れるよう今後も取り組んで頂けたらと思います。</p>

<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた進路指導</li> <li>・キャリア教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路相談の充実</li> <li>・進路説明会の実施</li> <li>・トライやる・ウィークの実施</li> <li>・立春式の取組</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動と連動したキャリアノートの活用促進</li> <li>・体験活動の充実</li> <li>・立春式への取組を通じたキャリア教育の継続</li> </ul>	<p>評価はAでもいいのではないかと考える。評価Aが妥当である。評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トライやる・ウィーク」をはじめとする多種多様な企業での体験活動は、生徒が社会との繋がりを実感する貴重な機会となっており、評価Bは妥当である。三木中独自の「立春式」やキャリアノート、「エナジード」のAIソフトを効果的に活用し、一人一人が「なりたい自分」を描くキャリア教育が体系的に展開されている。進路説明会や相談の充実により、保護者への情報共有も丁寧に行われている。今後は、体験活動で得た学びをキャリアノート等でさらに深め、自分の強みを活かした進路選択ができるよう、継続的な支援を期待する。</li> <li>・トライやるウィークや立春式など独自の取り組みが将来に役立つと思います。</li> <li>・キャリア教育に力が入っているのがわかります。実践以外で意識の学びなどもプラスになると思われます。</li> <li>・トライやるウィークなど地域自治会活動など社会と関わる時間を更に広く長く経験させてもらいたい。生徒達の目が輝いています。</li> <li>・生徒会と学校運営協議会委員との座談会は大変有意義であった。職場体験や外部講師による授業を通して自己実現を図るために必要な資質について明確に意見を言えて、実行している生徒がいることに感心した。学校の取組が進んでいることが分かる。</li> <li>・トライやる・ウィークの実施や立春式への取組など、自身の将来を見据えた活動が実施できており、生徒の経験値は非常に高いと感じる。特に立春式への取組は、市内で実施している学校はなく、三木中学校独自のものであり、生徒は自身の未来について考える機会がより多く、キャリア教育が充実していると考えます。</li> <li>・進路相談や進路説明会、トライやる・ウィークなど、学年に応じた丁寧な進路指導に取り組んでいただいていることがよくわかりました。立春式の取組を通じたキャリア教育も大変意義深いものと感じております。今後は、体験活動とキャリアノートを連動させることで、生徒が自らの成長を振り返りながら将来への見通しを持てるような取組のさらなる充実を期待しております。</li> <li>・トライやるウィークは職場、福祉、文化体験等を通じて、社会との繋がりを学び、主体性や自己肯定感を育む効果を評価できる。</li> </ul>
<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と管理職の意見交換会の開催</li> <li>・学級経営の充実</li> <li>・生徒会活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会による学校行事の企画及び運営</li> <li>・生徒会委員会活動の充実(管理職との座談会実施)</li> <li>・ノー部活デー完全実施によるメリハリある部活動運営</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会による学校づくりへの主体的な取組</li> <li>・生徒会を中心にした主体的な行事運営</li> <li>・進んで練習に参加しようとする部活動運営</li> </ul>	<p>評価Aは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果からも明らかなように、多くの生徒が学校行事や学級活動に主体的に取り組む、高い充実感を得ていることから、評価Aは妥当である。生徒会執行部と管理職が定期的に意見交換を行う場があり、生徒自らが学校文化を創り上げようとする姿勢は特筆に値する。行事運営のみならず、地域行事への積極的な参加や部活動におけるメリハリのある運営など、生徒の自主性が全方位に発揮されている。各行事で見られるような教職員と生徒の温かい交流も含め、この素晴らしい学校の活気を今後も大切に維持・発展させてほしい。</li> <li>・生徒会を通じて将来のリーダーが誕生することを期待しています。</li> <li>・生徒会を中心に行事運営に取り組まれていると感じられる。今後、部活動地域移行により、生徒との関わり方が気になります。</li> <li>・生徒会活動や部活動を通じて生徒達がのびのびと活動している。</li> <li>・生徒会を中心に主体的な学校生活を送れるような取組を実施できている。学校運営協議会委員との座談会での生徒の様子から将来の目的をしっかりと見据えて学校生活を送れている生徒の姿が伺えた。主体性が育つ取組が組織的に指導できていると感じる。生徒会役員の中には不登校生徒が学校に少しでも通えることを望んでおり、そのための受け皿として放課後の教室開放などを考えている。このことから自主的な学校づくりを行う風土ができていると感じる。</li> <li>・生徒会活動が非常に活発に行われており、生徒の自主性の育成に大きくつながっていると感じる。今後、部活動の地域クラブ展開が進み、校内における生徒の自主的活動の場が少なくなっていくことが懸念される中、放課後時間を活用した生徒の自主的活動の場が設けられることを期待する。</li> <li>・生徒自身が学校生活をより良くしようと積極的に動いている姿が伝わってきます。管理職との座談会やノー部活デーの取組からも、生徒と教職員が互いに信頼し合える関係が築かれていると感じられます。今後も、生徒の自主性と発想を大切にしながら、活気ある学校づくりが続いていくことを期待しております。</li> <li>・生徒会が主体的に活動していることが評価できる。生徒会と学校運営協議会で座談会が開催されたことが評価できる。</li> </ul>

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する生徒の理解と支援の充実</li> <li>・家庭、関係機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の特性を共通理解し、効果的な支援の実施</li> <li>・保護者、関係機関との連携推進</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とした指導体制の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する生徒の共通理解</li> <li>・個人カルテの作成と共有</li> <li>・特別支援教育に係る専門性の向上</li> <li>・特別支援教育指導補助員等と連携した支援</li> </ul>	<p>評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とした全教職員による共通理解と、指導補助員と連携したきめ細かな指導体制が構築されており、評価Bは妥当である。個々の特性に合わせた「個人カルテ」の作成と共有により、発達に課題のある生徒が安心して楽しく通学できる環境が整っている点は非常に評価できる。コミュニケーションに課題を持つ生徒に対しても、適切な支援を行うことで、より良い学校生活が送れるよう配慮されている。今後も専門性の向上を図るとともに、家庭や関係機関と密に連携し、個々のニーズに応じた一貫性のある支援を期待する。</li> <li>・障害を持つ生徒に個々に寄り添い指導されていると思います。</li> <li>・特別支援コーディネーターを中心として今後も取り組んでいきたい。</li> <li>・支援が必要な生徒に適切に指導して良い学校生活が送れる事を願いたい。</li> <li>・多様にわたる人材を活用して個に応じた指導が行えている。</li> <li>・これまで培ってこられた特別支援教育の「不易」の部分が確実に継承され継続した取組になっていることが伺える。関係機関が今後さらに充実していくと考えられる中、その活用を含めた新たな取組を期待する。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりの特性に寄り添った支援体制が整えられていることが伝わってきます。今後は、個人カルテの作成・共有を通じて教職員間の共通理解をさらに深めていただくとともに、指導補助員や関係機関との連携を活かしながら、専門性の高い支援が充実していくことを期待しております。</li> <li>・特別な支援を要する生徒への情報共有と共通認識をされていることが評価できる。</li> </ul>
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導力の向上</li> <li>・生徒理解に基づく生徒指導の推進</li> <li>・意欲的な研修への参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不断の授業改善</li> <li>・SC、SSWによる校内研修の実施</li> <li>・教育センター等の研修講座への積極的な参加</li> <li>・授業公開による授業力向上</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善のための情報提供</li> <li>・講師を招聘した校内研修の充実</li> <li>・小中一貫教育推進に係るカリキュラムの策定</li> <li>・OJTによる若手教師の育成、教育技術の継承</li> <li>・主体的な研究テーマ設定による研究の充実</li> <li>・組織的な指導体制の構築と対応力の向上</li> </ul>	<p>評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士で積極的に授業参観を行い、AIソフトの導入や特別な支援が必要な生徒への対応法を学び合うなど、組織的な授業改善が進んでおり、評価Bは妥当である。SCやSSWIによる校内研修や教育センターの研修への積極的な参加を通じ、生徒理解に基づいた指導力の向上が図られている。特に、OJTによる若手教員への技術継承や教育技術の向上に努めている点は、学校の持続的な発展に大きく寄与している。今後は、小中一貫教育の推進に向けたカリキュラム策定や、働き方改革を意識した業務の分業化など、より主体的な研究の充実に期待したい。</li> <li>・教育という聖職に就かれていらっしゃる以上は向上意識を持って仕事に挑んでいただきたいと思います。多数の改善方法を実施されていることが評価される。</li> <li>・様々な指導方法に力を入れられており、今後も期待していきたい。</li> <li>・若い先生方が多く見受けられますので、ベテラン先生としっかりタッグを組んでより良い教育環境を築いてもらいたい。</li> <li>・探求型の授業づくりや道徳科におけるローテーション授業など、従来までの一斉授業からの脱却が図られ、学びに向かう力や学び方などを育成できる授業づくりに取り組まれている。社会に出て、実際に役立つ力を身に付けるための授業づくりに積極的に取り組まれていることは評価できる。</li> <li>・不登校や問題行動への対応など、日々多忙の中、教師の普段の授業改善には、頭の下がる思いである。今後、効率的にかつ効果的に研修を深めることができるよう、講師招聘研修や研修講座への参加等、積極的に取り組んでほしい。</li> <li>・授業公開やSC・SSWIによる校内研修、外部研修への積極的な参加など、教職員一人ひとりの資質向上に組織的に取り組んでいただいていることが伝わってきます。今後は、OJTを通じた若手教師の育成や教育技術の継承を大切にしながら、小中一貫教育を見据えたカリキュラムづくりや主体的な研究活動を通じて、学校全体の指導力がさらに高まっていくことを期待しております。</li> <li>・指導力向上に多方面から取り組まれていることを評価します。教員同士の学び合いのコミュニティを大切に今後も探究に取り組んでいただきたいです。</li> </ul>

<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくり</li> <li>保護者、地域との連携による生徒の健全育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の発足と活動</li> <li>ホームページやずぐるを活用した情報発信</li> <li>学級、学年、学校通信の発行</li> <li>生徒会による地域行事への参加</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の活動の充実</li> <li>オープンスクールや行事の開催方法の工夫</li> <li>地域行事運営への生徒の参加</li> </ul>	<p>評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度からの「学校運営協議会」の設置により、地域と共にある学校づくりがより具体的な形で進み始めており、評価Bは妥当である。ホームページやSNSを活用した積極的な情報発信により、学校の様子が保護者や地域に透明性を持って伝えられている。生徒会が中心となって細川地区・口吉川地区・三木地区の地域行事に積極的に参加している光景は、地域の方々からも高く評価されている。今後は、学校運営協議会の活動をさらに充実させ、オープンスクールの開催工夫などを通じ、地域全体で生徒の成長を支える体制をより強固にすることを期待する。</li> <li>ずぐるアプリを活用し、各家庭にお知らせ等が行き渡っていることが評価される。</li> <li>地域行事などに参加するのはとてもいいことである。参加したい意欲になるように運営される側にもいい企画を期待したい。</li> <li>地域行事にも参加して開かれた学校を目指している。更に地域に愛される学校になるためには地域の自治会や団体に学校に足を運んでもらうミッションを企画してみたい。</li> <li>学校運営協議会の提案による生徒会との座談会の実施は有意義であった。地域と連携した学校運営が図られている。</li> <li>ずぐるを活用しての情報発信も適切に行えている。</li> <li>学校評議員会から学校運営協議会への変換、運営協議会の実施等、新たな取組には、様々な労力が必要となってくるが、事前準備を確実に行うことでそれをカバーし、スムーズに取組を進めることができた。来年度以降も、継続して取組を進めてほしい。</li> <li>学校運営協議会の一員として、ホームページやずぐるを通じた丁寧な情報発信や、生徒会による地域行事への積極的な参加など、地域とのつながりを大切にしたい取組が着実に進んでいることを実感しております。今後は、オープンスクールや地域行事への生徒参加をさらに広げていただくとともに、学校・保護者・地域が一体となって生徒を支える環境づくりが深まっていくことを期待しております。</li> <li>ずぐるを活用し学校運営協議会の委員に学校活動がリアルタイムでわかるようにされているのが評価できる。生徒会を中心に地域ボランティアに参加されているのは子ども達にとって良い経験だと思います。</li> </ul>
<p>施設・設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設、設備の充実</li> <li>スクールバスの適切な運行</li> <li>美化活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化設備や損傷箇所の修繕</li> <li>スクールバス運行会社との連携</li> <li>教師と生徒と同行の清掃活動</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市教委と連携した施設設備への対応（老朽化設備や損傷箇所の迅速な修繕）</li> <li>PTAと連携した校地整備</li> <li>スクールバスの円滑な運営のための連絡体制の構築</li> </ul>	<p>評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育館への空調設備設置の計画や老朽化した設備の修繕など、生徒が快適に過ごせる環境整備が進められており、評価Bは妥当である。特に酷暑や異常気象への対応として、樹木の低木化や設備の迅速な修繕に取り組んでいる点は、生徒の安全確保の観点から非常に重要である。スクールバスの運行についても、運行会社と密に連携することで安全・安心な登下校が実現されており、地域からの信頼も厚い。今後も市教委と密に連携し、施設面での課題を事前に解決するとともに、PTAと協力した校地美化活動を継続し、安全で清潔な教育環境を維持してほしい。</li> <li>老朽化した設備には問題ありですが、スクールバスの充実も評価される。</li> <li>ここ数年異常気象が続いている中、災害時に備えた急なスクールバスの運行にも対応されている。高い樹木を早めに切って低くするようにしたい。</li> <li>広域から登校している現状であるので、生徒の安心安全に最大限の注意を願いたい。</li> <li>生徒が安全に学べるための環境づくりに迅速に取り組んでいる。</li> <li>スクールバスの運行に関しては、生徒の登下校に関わる大きな問題であり、失敗が許されない事項でもある。今年度1年間特に大きな問題なく進められているのは、密な連絡、連携体制の構築が考えられる。今後も継続して生徒たちの安全安心な登下校を担保してほしい。</li> <li>老朽化設備の修繕や清掃活動など、安全で快適な学校環境の維持に丁寧に取り組んでいただいていることがよくわかりました。今後は、修繕箇所を写真や記録票で管理し市教委へ優先順位をつけて報告する仕組みを整えていただくとともに、PTAと連携した年1回程度の校地一斉整備を計画的に実施していただくと効果的ではないかと思えます。スクールバスについても、遅延・事故発生時の保護者への連絡手順をマニュアル化したものがあれば良いと思います。</li> <li>PTAと連携し、愛校作業をしていることが評価できる。生徒たちが気持ちよく学習、活動ができるよう施設・設備の充実に努めていただきたい。</li> </ul>